

## ベトナム

## 「ウィズコロナ」政策への転換で景気は急回復

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

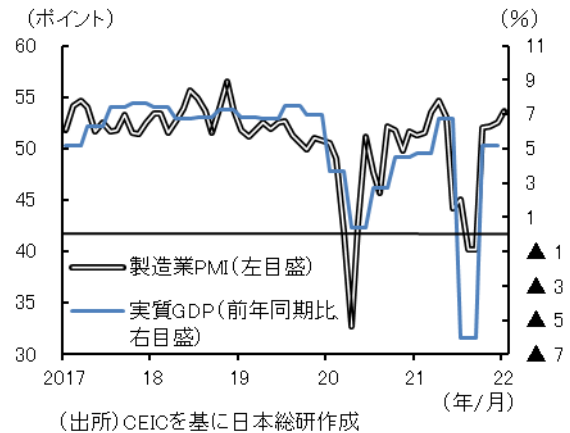
主任研究員 野木森 稔

E-mail: nogimori.minoru@jri.co.jp

## ■経済活動の正常化で景気は急回復

ベトナムの2021年10～12月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.2%と、前期のマイナス成長(同▲6.0%)からプラスに転じた。昨夏に厳格な経済活動規制が実施されたことから、多くの工場で操業が停止したが、年末にかけて正常化が進み、生産が回復した。実際、10～12月期の実質輸出は同+14.3%と前期の同+2.5%から加速した。活動規制の緩和は外出の増加につながり、実質消費も同+3.9%(前期同▲2.8%)と回復した。2022年1月の製造業PMIは53.7と前月の52.5から上昇する等、今年1～3月期のGDP成長率は一段と高まる可能性がある(右上図)。当面は一定レベルの活動規制は続くことから、内需への下押し圧力はある程度残るものの、生産活動への影響は小さく、輸出をけん引役とした景気の回復は続くと見込まれる。

&lt;ベトナムの製造業PMIと実質GDP&gt;



## ■再び高まる製造業サプライチェーンにおけるベトナムの重要性

足元の景気回復には、ベトナム政府が新型コロナへの対応を「ウィズコロナ」へ転換したことが大きく影響している。昨年10月に発表された新たな感染対策では、食料を配給制にして一切の外出を認めないといった従来の厳しい行動制限が見直された。たとえば、感染リスクのレベルによらず、貨物輸送等は継続可能とされた。飲食店等の営業制限は緩和傾向が続いている。ベトナム保健省は1月27日、新型コロナ感染リスク評価に関する新基準を公表し、新規感染率よりも、重症化率や死亡率、医療体制の指標を重視する方針を示した。現在、新型コロナ感染者数の増加(2月18日時点で3.6万人)は続いているが、死亡者数は減少傾向にある(右下図)。一方、ワクチン接種率は77.6%に達したほか、ブースター接種も31.2%と世界平均の16%を超えており、「ウィズコロナ」政策を進める体制が整備されている。

&lt;ベトナムの経済活動と新型コロナによる死亡者数&gt;



ベトナムの政策転換は、「ゼロコロナ」政策を続ける中国とは対照的である。仮に中国政府が「ゼロコロナ」政策に固執すれば、グローバル企業の「チャイナ・プラスワン」戦略がコロナ禍で加速し、海外拠点を中国から移転させる動きが強まる可能性がある。移転先には柔軟な政策転換によって経済立て直しを果たしたベトナムが選択される可能性が高まっており、その場合はベトナムへの直接投資が一段と増加することが予想される。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。